

嶮山小通信

8・9月号

ホームページアドレス <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kenzan/>

校長 山口 昭代

“運”を連れてくる行動

副校長 内田 宏平

年齢を重ねるにつれて、甲子園に弱くなっていきます。全力で挑む姿に感動するのはもちろんですが、選手やチームが背負うドラマを知ってしまうと、もう涙腺が緩みっぱなしです。

今夏も高校野球のドラマをたっぷり堪能したのですが、14日に行われた仙台育英高校と鳴門高校の試合中、興味深い場面がありました。

仙台育英の中堅手、試合中にゴミ拾い 運も拾ってきた？

仙台育英の中堅手、水岡蓮が試合中にゴミを拾うファインプレーで幸運を引き寄せた。

甲子園は接近中の台風10号の影響もあってか、強い風が吹いていた。五回裏の守りの途中に、大きな白いレジ袋が外野に舞い込んできた。水岡は小走りに近づいて拾い、ズボンのポケットへ。「守備の妨げになってもいけないし、拾って運も味方につけられたらと思った」

直後の六回の攻撃では先頭打者だった。右前に安打を放つと、敵失を誘い、一気に二塁へ。暴投で三塁に進んだ後、内野ゴロで7点目の本塁を踏んだ。

水岡ら3年生は、佐々木順一朗・前監督から「ゴミを拾うことは運を拾うことだ」と教わり、今も定期的に学校周辺を野球部員全員でゴミ拾いしているという。（後略） <2019年8月14日 朝日新聞>

どこかで、見たぞこんな場面・・・そうです。メジャーリーグで活躍するエンゼルスの大谷翔平選手です。昨年春のレンジャーズ戦で、一塁ランナーとして牽制を受けた後、グラウンドに落ちている小さなゴミを拾っていました。試合後、大谷選手はこう言っていました。「人が捨てた”運”を拾っている」・・・

仙台育英の選手と大谷選手は、同じ理由で同じ行動をとっていたのです。

大谷選手は高校一年生のときに『プロ野球8チームからドラフトで一位指名される』という目標を立て、それを実現させるための方策の一つとしてゴミを拾い始めたそうです。ゴミを拾うこととドラフトで一位指名されることは、まったく無関係なようですが、大谷選手は、「ドラフトで一位指名されるには“運”が必要。“運”をよくするために、よい行動をとる」と考えたそうです。

なるほどなあと思います。「ゴミを拾う」ことそれ自体が夢に直接つながるというわけではなく、「ゴミを拾う」行為を自分の判断で行うことが、夢につながる“運”を連れてくるという考え方は、胸にストンと落ちます。さらに、「ゴミを拾う」という行動は、周囲の人や環境のためにもなります。主体的にとった行動が皆のためになるなんて、素晴らしいことです。まさに、一石二鳥です。

日々の生活の中で、自分の夢や目標と直結するための行動をとるというのは、難しいことだと思います。正直、将来の夢がまだ絞り切れていない人や具体的なイメージが湧いてこない人もいるでしょう。ですが、確実にやってくる将来のために、主体的に「ゴミを拾う」という行動を通して、自分の“運”をよくしたり、周囲の人や環境のために働きかけたりすることはできそうです。

グローバル化の進展や情報社会、超スマート社会、AIの進化等、新時代の到来を感じさせる出来事が迫ってくる現代。将来の職業選択も大きく変化するのではないかとされています。

ですが、どんなに予測が難しい時代になったとしても、仙台育英の選手や大谷翔平選手が実践しているように“運”を身に付けておくことで、開かれる道が広がっていくように思います。

さあ、夏休みが明けました！嶮山小学校の皆さん、厳しい暑さは続きますが、焦らず慌てずゆっくりじっくり学校生活を再開させていきましょう。そして、その中で、自然に“運”を連れてくる行動がとれる気持ちを育てていきましょう。きっと、自分の成長につながる発見があるはずです。

嶮山小学校に関わるすべての皆様、今月もご支援の程よろしく願いいたします。

